

緊急輸送路の土砂災害からの保全



徳島県県土整備部河川局 砂防防災課長 津田 修

徳島県では、災害発生時における人命の救助や生活物資・資機材等の広域的な緊急輸送を行うため、徳島自動車道をはじめとする55路線を「緊急輸送路」として指定し、災害に対する強度の調査を行い、必要な整備の検討を進めています。

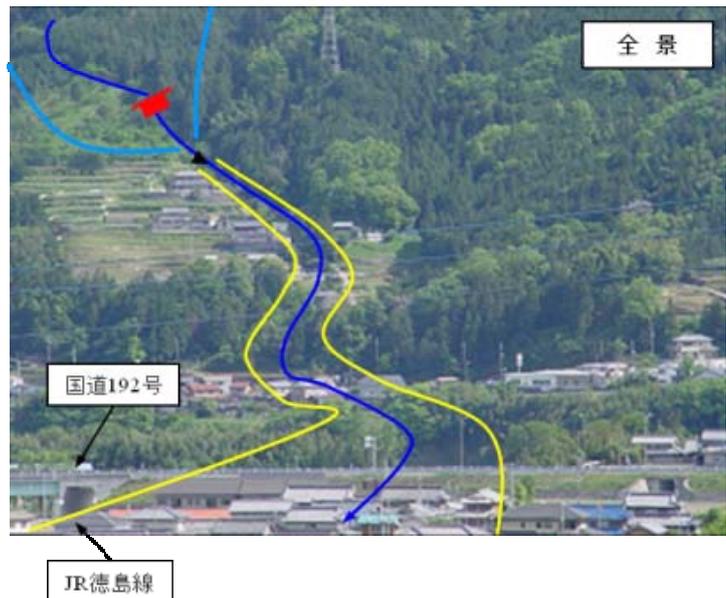
砂防関係事業におきましても、人的被害の軽減を図るために、円滑な人命救助などの応急活動を確保するための「緊急輸送路の保全」に重点的に取り組んでいます。

徳島県は、地形が急峻であり地質も脆弱であることから、緊急輸送路に被害が及ぶ危険性のある土砂災害危険箇所が797箇所（土石流危険渓流Ⅰ（※1）292箇所、地すべり危険箇所174箇所、急傾斜地崩壊危険箇所Ⅰ（※2）331箇所）存在し、平成22年度末で252箇所が対策を概成しています。

美濃田1号谷（東みよし町）は、人家やJRのほか緊急輸送路である国道192号に被害が及ぶおそれのある土石流危険渓流であり、平成16年には小規模な土石流が発生し、国道とJRが一時通行不可能となりました。このため、平成19年度から通常砂防事業により砂防堰堤の整備を進めており、本年度に概成する予定であります。

今後も引き続き、ハード・ソフト一体となった確かな土砂災害対策を進め、県民の皆様の安全・安心をしっかりと守って参りたいと考えています。

（※1、※2は保全対象5戸以上の箇所）



安心して暮らせる町を目指して



かわはら よしろう

徳島県東みよし町長 川原 義朗

東みよし町は、面積122.58 km²（可住地面積26.88 km²、可住地面積割合21.9 %）、世帯数5,153世帯、人口約1万6千人の町です。日本列島の中心点〔北緯34度、東経134度の特異点（緯度・経度の下2桁が同じ点）〕があり、しかも、この地点が日本列島に21ある特異点の真ん中になります。〕があり、徳島県の西北部、四国のほぼ中央部に位置し、北は香川県、東はつるぎ町、西・南は三好市と接しています。町の中心部には、西から東へとかつては「四国三郎」と呼ばれた日本三大「暴れ川」である吉野川が流れ、北に阿讃山脈、南に四国山地と急峻な山々に囲まれ、豊かな水と緑に恵まれた町です。

また、吉野川に沿って広がる肥沃な平野部の南岸には国道192号、JR徳島線、北岸には徳島自動車道、県道鳴門池田線がほぼ平行に走り、その周辺部を中心に街並みが形成されています。

さらに、徳島自動車道吉野川ハイウェイオアシスには、ETC専用インターチェンジの設置も完了し、今後中・四国はもとより近畿圏域との交流連携の拠点として発展が期待されています。

しかし、町の中心を流れる吉野川は、時に洪水となり大きな被害をもたらしてきました。平成16年には度重なる台風の襲来に川の氾濫及び内水による浸水被害が多く発生しました。現在、国県の協力を得ながら、堤防の建設また内水被害の軽減を図るため、新たな用排水路の建設及び拡張を行っています。

また、近年の異常気象や東日本大震災のような地震といった災害に対し、避難所等防災施設の整備を図るとともに、自主防災組織の結成を進めています。昨年度は、徳島県西部総合県民局との共催により災害時用援護者支援事業として、講演会、大雨を想定した各地区での要援護者避難支援訓練、また要援護者の支援方法等を体験すると言ったソフト対策も進めてきたところです。今後も地域住民と一体となり防災力の強化に努めていきたいと考えています。

最後に、更なる住民の安心安全のため国及び県と連携しながら地域防災計画の充実を図り災害に強いまちづくりを推進してまいりますので、関係諸機関の皆様方には、今後ともご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成16年台風による洪水



山口谷川河口の治水工事（堤防工事）



災害時要援護者対策講演会（防災マップ作り）



要援護者支援の体験